

**横浜市指定管理者第三者評価
横浜市野島青少年研修センター
評価シート**

横浜市青少年施設指定管理者選定評価委員会

目次

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| 1. 総評 | | 3 |
| 2. 基本方針 | | 5 |
| (1) 施設管理運営の基本的な考え方 | | 5 |
| (2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針 | | 7 |
| 3. 事業計画 | | 9 |
| (1) 事業実施に関する基本的な考え方 | | 9 |
| (2) 計画的な事業展開について | | 11 |
| (3) 利用者サービス向上について | | 14 |
| (4) 地域や他機関等との連携・協働について | | 16 |
| 4. 管理運営 | | 18 |
| (1) 運営体制に関する基本的な考え方について | | 18 |
| (2) 収支計画について | | 21 |
| (3) 施設の維持管理について | | 23 |
| (4) モニタリングの実施について | | 24 |

<評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

1. 総評

| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|---------|------|------|-----|------|------|------|------|---------|---------|---------|-----|-------|-------|-------|--|--|
| <p>【取組事項等】 子ども・青少年に対する宿泊を伴う生活体験、集団で活動する社会体験、周辺環境を活かした自然体験など様々な体験活動を通じて、子ども・青少年の自己肯定感や自己選択力を育む活動を推進しています。</p> <p>《体験プログラムの開発・提供》 「野島」特有の自然を活かした魅力的な体験プログラムや、学校の教育カリキュラムに対応した体験プログラムを漁協・企業・大学等と連携・協働して、プログラムを開発し提供しました。</p> <p>《地域との連携・協働》 地域町内会など地域の方々との相互交流を積極的に努めています。 地域の催事への参加や、発災時は地域との協力関係・体制が大切であることから、地域の防災訓練・避難訓練等に参加し、地域防災の理解を深めています。 また、「陶芸教室」事業、体験プログラム「野島カリー」には、地域の方々がボランティアとして活動して頂いています。</p> <p>《防災への取組み》 地域ネットワーク会議を主催し、野島の町内会、野島公園運営団体と避難経路や避難場所など災害時の対応について情報の共有に努めています。 また、金沢区災害ボランティアネットワークと連携した防災キャンプを毎年実施しています。29年度は子育て世代を対象とした防災DAYキャンプを実施しました。</p> <p>《青少年指導・育成者の養成》 青少年指導者・育成者の活動支援を目的とした指導者講習会の実施や、「体験プログラム集」をホームページ上で発信するなど情報提供を行うとともに、プログラム相談、事前打ち合わせの機会を作るなど快適かつ効果的な研修活動を支援しています。</p> <p>《困難を抱える青少年への支援》 困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復を図れるよう、生活体験や集団活動の機会を提供し、体験活動を支援しています。</p> | | <p>【現状の評価】 ・提案書に基づき、体験プログラムの提供・開発、青少年指導者・育成者の養成、地域との連携・協働、防災への取組などで確実に実績を積み重ねてきている点を評価します。 ・年度により若干の数値の変動はあるものの、指定管理期間前半で、すでに5ヵ年の目標が達成されたものがあるなど、全体的に順調に事業は進捗しています。 ・利用者数、稼働率とも着実に伸びていますが、その要因は体験プログラム数の充実、シーサイドライン沿線での他団体との連携、近隣の高校や大学等の部活動・ゼミ合宿などへの働きかけなどにより、新規利用促進を図った成果が出たものと評価できます。 ・臨海部に立地する自然環境や、地域内の団体、大学、青少年育成団体等との連携が充実・強化される中で、指定事業、自主事業の双方において、プログラムの拡充が図られてきています。また、青少年育成者に対する活動支援についても、事前打ち合わせや当日の支援など、きめ細かな対応が行われています。 ・横浜市青少年野外活動センターとは異なる研修が可能な施設であるという特徴を活かす努力をしていることを評価します。 ・施設の利用者ニーズや様々な団体が感じている青少年の課題を理解するための調査分析を丁寧に行い、その結果を事業に反映するための努力をしていることを評価します。 ・この数年で事業内容の充実、地域連携・協働の深まりがわかりました。研修センターの職員一人ひとり、利用者・連携団体等の日々の活動の成果によるものと思います。 ・管理運営における危機管理対応については、今の環境変化をとらえつつ、慎重な備えを行っていくことが求められます。 ・収支計画に対する実績の検証において、当初の予算立てが現在の実態と乖離したのになっていることから、修正を図る必要があります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>736件</td> <td>644件</td> <td>724件</td> </tr> <tr> <td>利用人数</td> <td>31,238人</td> <td>29,212人</td> <td>34,747人</td> </tr> <tr> <td>稼働率</td> <td>80.2%</td> <td>80.5%</td> <td>84.3%</td> </tr> </tbody> </table> | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 団体数 | 736件 | 644件 | 724件 | 利用人数 | 31,238人 | 29,212人 | 34,747人 | 稼働率 | 80.2% | 80.5% | 84.3% | | |
| | 27年度 | 28年度 | 29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 団体数 | 736件 | 644件 | 724件 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利用人数 | 31,238人 | 29,212人 | 34,747人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 稼働率 | 80.2% | 80.5% | 84.3% | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き新規利用者獲得に向けた利用促進策を講じ、日帰り客、宿泊客の増加を図る必要があります。 ・体験学習校の利用促進、市内小中学生や親子の参加促進に向け、小中学校に対する広報や連携を強めていくことが望まれます。 ・危機管理対応については、近年、これまでの想定を超える自然災害の被害が発生していることから、想定外の事態も視野に入れた対応の検討が望まれます。また、災害発生時には、公的施設であることから、近隣住民が研修センターに避難してくる可能性も考えられます。そうした場合の受け入れ対応などについても、万全の備えを図っておくことが望ましいと思われまます。 ・設備管理業務についての委託方式が一括委託となったことから、予算と実績に大きな差が生じるなど、元々の予算立てが実態に合わないものとなってきています。支出の項目ごとの予算を、設備管理業務一括委託の方式に合わせた形で組みなおし、予算と実績の差異が実態に即した数値となるよう、見直しを図る必要があります。 ・青少年にとって、学校で学ぶことと共に、地域での体験活動がさらに重要になってきます。現在、一定のプログラムは実施されていますが、もう一段、プログラムを高め、深めていくことが望まれます。これからの研修センターの可能性に期待しています。 |
|--|--|

2. 基本方針

(1) 施設管理運営の基本的な考え方 (様式7)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| ア | 役割、課題に対する考え方 | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている | | | | | | |
| イ | 管理運営に関する考え方 | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1)体験プログラム、宿泊キャンプ、日帰り体験教室、ボランティア活動まで、市内の全ての青少年を対象とする体験活動の機会を充実しました。</p> <p>(2)日々変化する青少年を取り巻く現状を踏まえて、毎年、その変化に対応した体験プログラムの内容や手法、事業の見直しを行っています。</p> <p>(3)施設の貸出を通じて、活動支援や助言などを行い、青少年育成者の人材を養成しています。</p> <p>イ(1)自然環境保護への意識を育むプログラム、コミュニケーション能力を高めるプログラムなど活動目的に応じて選択できるよう、新たな体験プログラムを開発しました。</p> <p>(2)施設の貸出では、利用団体の活動目的を把握し、事前打合せ会でのプログラム作成の助言から当日の活動まで継続して支援しています。</p> <p>(3)災害時や事件・事故発生の際の対応マニュアルの見直し・改善を行い、事前予防や安全管理対策を行っています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <p>・横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえて、施設の役割を果たしています。また、管理運営基本方針に沿って施設を管理運営しています。</p> <p>・横浜市の総合計画や、横浜市子ども・子育て支援事業計画などを踏まえながら、研修センターの立地特性や周辺の資源など施設の持つ強みを活かした体験プログラムが提供されており、子ども・青少年の体験活動と、指導者・育成者の研修活動支援が幅広く展開されています。</p> <p>・地域との連携強化を視野に入れて運営されていることを高く評価します。</p> <p>・研修センターの立地特性を活かし、日々変化するニーズや環境に合わせて、日帰り体験、宿泊体験のプログラムの充実をはかり、柔軟に対応することの2点が重要であることが分かり、それを着実に実行に移している点が評価できます。</p> <p>・提案書で、管理運営に関する基本方針に掲げられた「防災安全対策の強化」に向けて、今期指定管理期間の新規事業として掲げた地域防災への取り組みや、防災キャンプの実施については、地域団体との連携の下で、着実に取り組みが進められています。</p> | | | |

| | |
|--|---|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者が使いやすい施設を目指して、わかりやすい説明や親切な案内を心がけ施設運営を行っていきます。 2 日々変化する青少年のニーズや取り巻く環境に合わせて柔軟に対応するとともに、引続き集団での宿泊体験を通じて、青少年育成の場を提供します。 3 地域団体との連携を強化し、避難訓練等災害時に備えて取り組みます。 4 困難を抱える青少年など体験機会の少ない青少年を対象とした体験活動の機会を充実させます。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の青少年の現状や社会的ニーズ、課題を丁寧に分析したうえで、安全で効果的なプログラム開発に力を入れていると思います。今後は、新しいプログラム開発のみならず、既存のプログラムをよりよいものに発展させるために、効果測定をしっかりと行い、研修センターならではの魅力のあるプログラムを提供し続けていただきたい。 ・市内の全ての青少年を対象とした取組の推進により、利用者層の拡大を図るとともに、近年では大人が安全な環境を整え、子ども達に提供するものに参加することが多くなっている傾向が見られる中で、青少年の持つ本来の力を引き出すプログラム開発に取り組むなど、青少年を取り巻く環境における課題の深掘りなども行っていくことを期待します。 ・地域防災や、防災キャンプなどの防災安全対策については、一定程度のノウハウが蓄積されたところで、市内への波及を目指したノウハウ移転などが望まれます。 ・臨海部に位置しているという立地は、自然環境に恵まれている一方、自然災害の影響を受けやすく、最近各地で想定外の被害の発生も見られることから、青少年の命を預かる施設として、引続き施設の安全確保に細心の注意を払って努めてください。 |
|--|---|

(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針(様式8)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|-----------------------|-----------|---|--|------------|---|---|
| | | 評価(A・B・C) | | | 評価(A・B・C) | | |
| ア | 目標について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 指定期間の達成目標に対し、順調に進んでいる | | | | | | |
| イ | 計画方針について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 計画方針に沿って、施設が管理運営されている | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1)体験プログラム数を充実させるとともに、参加者数の増加に努めました。 体験プログラム数は、指定期間内の目標数(30種目)に達し、参加者数も目標(15,000人)より1万人多い、年間25,065人の参加がありました。</p> <p>(2)館内の無線LAN環境の整備、物品販売を充実させ、利用者サービスの向上に努めました。</p> <p>(3)災害時に迅速かつ安全に利用者を避難させられるよう、地域と連携し、防災訓練や情報共有を図りました。</p> <p>イ(1)近隣大学や市民活動団体、地域との連携により、体験プログラムを開発し実施をしています。</p> <p>(2)情報提供や活動相談等の支援を通じて、青少年指導及び育成団体を支援しています。講座や市民ボランティア養成により、体験活動を支える人材を養成しています。</p> <p>(3)経済的に活動機会の少ない児童生徒など、困難を抱える青少年を対象に宿泊体験や社会体験等体験機会を提供しました。</p> <p>(4)チラシ配布、広告掲載、学校訪問など、新規利用者獲得に向けて利用促進を図りました。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <p>・提案書に記載された5つの計画方針、行動指針に沿って、着実に事業が進められており、多様な体験プログラムや体験活動の場が提供されています。</p> <p>・施設利用者数については、5カ年の達成目標として掲げた30,000人以上を平成29年度実績において達成し、また体験プログラム種目数、体験プログラム参加者数においても、平成29年度に5カ年の達成目標を上回っています。</p> <p>・体験学習の利用学校数においては、平成28年度の84校に対し29年度は79校と減少してしまいましたが、指定管理者の地道な努力から体験学習校の利用が増えている様子がみられました。今後も公立、私立の学校と連携して体験学習校を広げていくことを期待します。</p> <p>・市民ボランティアの養成などにより、シニアボランティアや「のじボラ」など、体験活動を支える人材の養成にも取り組んでいる点を評価します。</p> <p>・地域と連携した防災安全体制の確立という目標については、地元の防災訓練の参加や、金沢区防災ボランティアネットワークと連携した防災キャンプの実施などの取組みが進められています。</p> | | | |

| | |
|---|---|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 30 年度から体験プログラムの材料の加工作業の一部を、養護学校の授業に取り入れてもらうとともに、地域作業所に作業を委託するなど、養護学校や地域作業所に通う青少年へ社会貢献の機会を創設します。 2 体験学習校の利用が年々増えており、30 年度は 85 校の申込がありました。引き続き、体験学習を支援し、より多くの青少年に体験機会を提供していきます。 3 近隣町内会・野島公園運営団体と協働で防災訓練を企画、実施します。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度における体験学習校の利用申込が 85 校と前年度比で増大していることから、引き続き市内小中学校のニーズ把握に努めながら、研修センターの根幹のプログラムである体験学習校の受け入れ数が、目標値の 80 校を安定的に上回っていくよう努力してください。 ・体験プログラム種目数、体験プログラム参加者数については、目標数値を追うことに注力し、事業効率の低下を招くことのないよう、費用対効果なども視野に入れながらプログラムの充実を図っていくことが望まれます。 ・体験プログラムの開発、近隣の高校・大学等へ働きかけ、企業のサークル活動への PR などにより強化することで、5 年間の目標・計画方針を今後も達成できる可能性が高まっています。 ・体験プログラムの材料加工作業について、新たに養護学校や地域作業所との連携が図られたことは、意義あることとして評価できます。さらなる連携促進に努めて下さい。 ・大学・企業・市民団体・地域組織等の連携協働をさらに進め、地域に根ざした施設として可能性を追求してほしいと思います。特に経済的困難を抱える青少年や社会的に孤立しがちな青少年、ひとり親家庭に育つ青少年等に、豊かな体験活動を提供できる身近な施設として、それぞれの支援組織・団体との連携協働を望みます。 |
|---|---|

3. 事業計画

(1) 事業実施に関する基本的な考え方（様式9）

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|-------|------------|-------|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 青少年の体験学習及び青少年育成者の研修活動の支援のための考え方や方針について 事業計画に基づき、青少年の体験学習及び青少年育成者の研修活動の支援に取り組んでいる | | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| 【評価の根拠】 (1) 青少年の年代や目的に応じた体験プログラムを近隣の大学や市民活動団体と連携して開発・提供し、体験学習及び青少年育成者の研修活動の支援を行っています。 ・研修センター周辺の自然環境を活かしたプログラム 干潟観察、カニ釣り、ちりめんモンスターを探せ、いかだ作り、カヌー体験、レジンペレット集め等 ・研修センターの厨房を活用した食育プログラム 野島カレー、ちらし寿司、干物づくり、餅つき等 (2) 地域の高齢者をボランティアとして受け入れ、青少年を支える地域人材を養成しています。 (3) 利用団体に研修プログラム作成の際の助言や情報提供、当日の活動支援や体験プログラムでの指導をすることで、青少年指導者・育成者の活動を支援しています。 (4) 体験学習校の教員を対象にカヌーやいかだの事前体験会を実施しています。 | | | | 【現状の評価】 ・事業計画に基づいて、青少年の体験学習及び青少年育成者の研修活動の支援に積極的に取り組んでいます。また、体験プログラムの開発、シニアボランティアの養成、教員への事前研修への取組を評価します。 ・青少年の体験学習について、研修センター周辺の自然環境を活かしたプログラムや、近隣大学や市民活動団体と連携したプログラムなど、多様なプログラムの開発・提供が行われています。 ・青少年育成者の研修活動について、事前打ち合わせや、情報提供、当日の活動支援や体験プログラム指導を通じた支援が行われています。 ・充実したプログラムと利用団体への丁寧な助言、支援、指導の結果が、施設利用者アンケートでの「利用目的を達成した」という高評価に繋がっていると感じました。 ・自主事業においては、困難を抱える青少年を対象とした宿泊体験や就労体験など、指定事業だけでは対応が難しい課題への対応が図られています。 | | | |
| | 27年度 | 28年度 | 29年度 | | | | |
| 利用者の目標達成度 | 98.4% | 98.5% | 98.3% | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全性を最優先にし、魅力的で効果的な体験プログラムを提供できるよう、引き続き安全でわかりやすい進行方法や体験プログラム案内パンフレットの改訂を行っていきます。 2 服装や進行など体験プログラムに関する情報をホームページで紹介することで、研修センターのノウハウや情報を広く発信します。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市青少年野外活動センターなどとの連携も図られていますが、野外活動センターでは対応が難しい夜間・早朝の活動体験や、研修施設として青少年育成者の研修活動支援にも重点を置いていることなど、「研修センターでしかできないこと」を大事にした事業展開を期待します。 ・提案書において、「子ども・青少年の誰もが、『無理なく』『楽しく』『積極的』に活動に参加できるよう、発達段階に応じたプログラムを提供する」としてはいますが、大人目線ですべての環境を整えたプログラム提供にならぬよう、子どもが本来持っている力を引出すといった視点も大事にしていくことが望まれます。研修センターならではの、体験活動を通して青少年の力を引き出すようなプログラム開発に力を注ぐことを期待します。 ・青少年の体験学習および青少年育成者の研修活動の支援拠点施設として、中間支機能を発揮し、研修センターの有するスキルやノウハウを波及させることに、今後も積極的に取り組んでください。 ・ボランティアの計画的な育成、活用に努められていると感じました。今後は、更なるボランティアの受け入れと育成、活用を計画的に進めていかれることを期待します。 ・近隣の大学や市民活動団体と連携して開発・提供する体験プログラムの豊富化は、利用者増等の好循環を生むことが分かってきています。それらを一層開発すると同時に、こういった多彩なニーズに応える体験プログラムがあること自体を、潜在的な利用層にどう届け、どうアピールしていくかが重要となります。さらに、地域の高齢者やボランティアの力を借りる仕組みづくりも大切です。 ・自然・防災・食育・集団活動等の豊富な事業を多彩な担い手と共に実施しています。今後は、さらに学校教育において「社会に開かれた教育課程」がスタートすることに伴い、地域施設の役割はさらに重要になり、体験プログラムを教科に位置付けられるよう準備する等、一歩先を見据えた事業展開や広報に期待します。 |
|--|--|

(2) 計画的な事業展開について (様式 10)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|-------------------------------------|------------|---|--|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| ア | 指定事業の実施計画について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 利用者ニーズ、地域や施設の特徴を踏まえ、指定事業の実施に取り組んでいる | | | | | | |
| イ | 自主事業計画の実施計画について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1)電話や事前打ち合わせ会における研修プログラムの相談や助言、研修に必要な情報やデータの提供・発信を行っています。</p> <p>(2)利用者アンケートの意見を利用の手引きや体験プログラム案内及び工程表に反映させ、配布及びホームページで公開しました。</p> <p>(3)関東学院大学栄養学科の協力により、食物アレルギー対応の「ちらし寿司づくり」を開発し、提供しています。</p> <p>(4)研修センター周辺の環境や伝統文化を活かしつつ市民活動団体の連携によるカヌー体験や海苔づくり、地域の人達のボランティア協力による陶芸体験や、教育カリキュラムに対応した星空観察など多種多様なプログラムを、開発・提供しています。</p> <p>(5)事前研修のためにライフジャケットや物品の貸し出しや出張指導、資料やデータの提供をしています。</p> <p>(6)引率者が少ない団体が野島カリーやカニ釣りなどの体験プログラムを実施する際は、研修センターを通じて金沢区内のシニア世代に協力を依頼しています。</p> <p>また、体験プログラム以外の支援について、市民活動団体やボランティアが活動を支援するまでには至っていません。</p> <p>(7)金沢区や町内会と共催で陶芸教室やコグニサイズ、ボランティア養成講座を実施しました。ボランティア養成講座に参加した受講生が、体験プログラムにボランティアとして協力してくれています。</p> <p>(8)野島海岸の保全活動は、中高生の部活や大学サークルの活動、企業の社会貢献の場として、年々参加が増えています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <p>・利用者のニーズ、地域や施設の特徴を十分に踏まえた指定事業を展開しています。また、困難を抱える青少年を対象とする様々な体験機会、防災キャンプなどの自主事業への取組も評価します。</p> <p>・指定事業の実施においては、利用者アンケート等を通じたニーズ把握に努めながら、関東学院大学栄養学科との連携による食のプログラムなど、地域の人たちや市民活動団体との連携の下で、研修センター周辺の自然環境や伝統文化を活かしたプログラムなど、独自の多種多様なプログラムの開発、提供がされています。</p> <p>・自主事業の実施においては、不登校傾向にある児童、個別支援学級や寄り添い支援事業に関わる児童など、日頃宿泊体験や就労体験の機会が少ない青少年たちにもプログラムが提供されています。また、広く市民が参加できる個人や親子を対象とした体験事業、防災キャンプなど、幅広く事業が実施されています。</p> <p>・特に困難を抱える青少年は自尊感情が充分育まれていなかったり、低くなったりしてしまうことが多いが、仲間と様々な体験を共有することで自尊感情を育むことに繋がるので、体験の機会を提供することはとても有効です。しかし、支援する側の知識やスキルが必要な場面も多いと思いますので、ボランティア、職員が支援者として関わるための研修や学びも必要と考えます。</p> <p>・金沢区内のシニアボランティアや、町内会、中高生の部活や大学サークルの活動、企業の社会貢献活動など、多様な連携関係の中で、プログラムの充実強化や、参加層の拡大、さ</p> | | | |

| | |
|---|--------------------------------|
| <p>イ(1)困難を抱える青少年を対象に、宿泊体験や就労体験など様々な体験機会を提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある児童生徒対象 「ハートフルスペース宿泊体験」 ・市内個別支援学級に通う児童生徒対象 「野島クリスマスキャンプ」 ・市内寄り添い支援事業に関わる児童生徒対象 「わくわく生活キャンプ」 ・個別支援学級に通う中学生の就労体験の受入 <p>(2)金沢区災害ボランティアネットワークと連携し、防災キャンプを毎年実施しています。小学生から大学生までの青少年が、段ボールで宿泊するなど疑似避難所体験を実施しています。</p> <p>(3)教員や青少年指導者・育成者を対象とした指導者向けキャンプファイヤー講習会を実施し、毎年定員を超える参加があります。</p> <p>(4)宿泊体験や自然体験ができる宿泊及び日帰り事業を実施しています。</p> <p>[宿泊事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験キャンプ in のじま ・のじまチャレンジキャンプ ・1泊2日の秘密基地づくり ・よこはま横断ハイク（長期キャンプ） <p>[日帰り事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験教室 ・親子陶芸教室 ・親子クッキング教室（アレルギー対応食、魚づくし料理） ・海の生き物観察会 <p>(5)利用者利便性を考慮し、物品販売を始めました。</p> <p>[販売物品]</p> <p>スリッパ、歯ブラシ、洗濯用洗剤、キャンドルファイヤー用のロウソク</p> <p>(6)地域産業との連携事業として、横浜シーサイドラインとの連携「プレミアム探検ツアー」を実施しました。その後、日頃の広報にも協力もしてもらい関係性ができました。</p> <p>(7)横浜八景島シーパラダイスと協働して、それぞれの利用校に施設を紹介するなどの広報面での連携を図っています。</p> | <p>らには地域防災への取組みなども図られています。</p> |
|---|--------------------------------|

| | |
|---|--|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然体験長期キャンプ（3泊4日）を実施し、カッターや、ヨット、炭焼き体験など研修センター以外の体験活動を提供します。 2 体験活動の講師紹介リストを作成して、専門知識を必要としたり、引率者が少ない学校や団体に情報を提供し、活動を支援します。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム数が増えるにつれてボランティアの数も増えており、施設スタッフの力もさることながら、地域のシニア世代のボランティアの活用も大事なファクターであり、人件費を抑制する方策でもあります。また、青少年のボランティア「のじボラ」は、オールクリーン野島ビーチ、カヌー体験キャンプ、のじまオープンデーで活躍しており、年々急増していますが、一層裾野を拡大していく必要があります。 ・提供するプログラムが拡充されていく中で、事業効率の低下を招くことのないよう、改廃の基準なども定めつつ、費用対効果といった観点も視野にいれながら組み立てを行っていくことが望まれます。 ・今後予定している取組である「3泊4日の自然体験長期キャンプ」は、長期滞在における体験活動を通じて、生じた問題を自ら乗り越える力を醸成するという学びの効果を明確に打ち出すとともに、子どもの変化を検証し、これを保護者に伝え、広く発信していくことが望まれます。そうしたことが、体験活動の大切さへの理解促進につながると考えられます。一方、ヒアリング調査で「日帰りだと利用しやすい」との意見も見られることから、短期プログラムもこれまで通り大切にしていきたいことが望まれます。 ・公共施設として大切な、どのような人でも体験が得られる場というユニバーサルへの取組については、引き続き地道に継続していくことが望まれます。また、2020年の東京パラリンピックを視野に入れ、障がい者スポーツの普及や体験機会の提供を行っていくことなども検討してください。 ・今後高校・大学においても、地域に開かれ、地域で学ぶことが必須になることを考え、現在のつながりを単発のものから、連携協働体制をサービスラーニング・特別活動・ボランティア活動等に位置付け、組織的・継続的なものにしていく必要があります。そのために、日ごろから学校関係者との情報共有・コミュニケーションを大切にしてください。 |
|---|--|

(3) 利用者サービス向上について (様式 11)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------------|------------|-------|------------|------------|------|------|----------|-------|-------|-------|--|--|--|--|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | | | | | | | | | |
| ア | 利用者サービス向上のための取り組みについて | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C | | | | | | | | |
| | 利用しやすい工夫や館内サービスの向上、利用者ニーズへの対応が図られている | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | 広報活動・利用促進について | A | Ⓑ | C | A | Ⓑ | C | | | | | | | | |
| | 広報活動・利用促進に取り組んでいる | | | | | | | | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | | | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1)すべての利用団体を対象にアンケートを実施し、集計結果をデータ化して事業展開に活用しています。</p> <p>(2)研修室と食堂に無線LAN環境を整備、研修でパソコンが活用できるようにしました。またiPhoneとiPad専用接続コードの無料貸出も始めました。</p> <p>(3)予約手続き等の利便性を高めるため、利用の手引き・利用許可申請書・体験プログラム申込書をホームページからダウンロードできるようにしました。また、メールによる申請書類や事業申込の受理、職員による抽選会での代理抽選ができるよう利用者の利便性を高めました。</p> <p>(4)寝具の畳み方・部屋の清掃の仕方・体験プログラムに関する資料のメール配信サービスを行っています。</p> <p>(5)様々なニーズにあわせ、おねしょパット・布団の貸出、給食スタイルの食事サービスの提供、ケータリング業者の紹介を行っています。</p> <table border="1" data-bbox="215 1310 837 1377"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンケート満足度</td> <td>97.9%</td> <td>97.9%</td> <td>97.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ(1)ホームページで施設の空き情報を公開し、手軽に情報を得られるようにしています。</p> <p>(2)29年度に近隣の中・高校、大学へ訪問し、部活動や生徒会活動で研修センターを利用する際の要望や意見をヒアリングしました。</p> <p>(3)部活動や企業のサークル活動の利用増をめざし、横浜市立大学体育会部活の情報誌と横浜市勤労者福祉共済会報誌に広告を掲載しました。</p> <p>(4)市内公共施設85ヶ所、市立・県立高等学校75校に利用案内チラシを配布しました。</p> | | | | | 27年度 | 28年度 | 29年度 | アンケート満足度 | 97.9% | 97.9% | 97.9% | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度の向上を目指し、アンケート調査、要望や意見のヒアリングが実施されています。 ・利用者のニーズに対応して、施設内の無線LAN環境の整備といった研修活動の円滑化への取組や館内サービスの向上を図っており、満足度97.9%がその証となっています。 ・施設の空き室情報の公開、各種申込書をホームページからダウンロードできる仕組みづくり、体験プログラムに関する仕様のメール配信サービスの実施、布団の貸出、ケータリング業者の紹介など利便性を高めるための創意工夫がなされており、急速に利用者サービス向上を図ってきた点を高く評価します。 ・横浜観光コンベンションビューローのホームページに、修学旅行の受け入れ先として掲載するなどの取組も進められており、一層のサービス向上策を講ずることで利用者数の拡大が望まれます。 ・食事に関するサービスについては、平成28年度、29年度ともに、利用者が目標値の300人を下回っています。 ・利用促進に関しては、平成28年度に57団体、平成29年度に62団体の新規利用が得られていますが、この成果は、積極的な広報活動として展開してきたチラシ配架を通じたものではなく、口コミやホームページによるものであるなど、効果的な媒体の活用方法が未だ確立されていない面があります。 | | | |
| | 27年度 | 28年度 | 29年度 | | | | | | | | | | | | |
| アンケート満足度 | 97.9% | 97.9% | 97.9% | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行校獲得のため、横浜市観光コンベンションビューローのホームページに修学旅行の受入施設として研修センターの施設情報が掲載（30年度中）されます。 2 各区個別支援学級や特別支援学校の利用が増え、施設のユニバーサルデザイン化を図り、イラストによる利用案内を施設内に掲示していきます。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関するサービスについては、提案書に記載された方法に加え、業務用調理済み食材の活用など、厨房での調理を要しない簡便な方法を検討することが望まれます。 ・利用促進に向けては、学校に対し、提案書に示されている「教育カリキュラムに対応する体験プログラム」などについて、モデルプランを策定し、積極的に提案を図ることで、ニーズの掘り起こしをしていくことが望まれます。 ・横浜観光コンベンションビューローとの連携、特別支援学校等向けプログラムの開発等は新たな利用につながるのではないのでしょうか。 ・予約手続き等利便性を高めることを目的として進めると、一部の人にとっては不便になることもあるので、様々な視点で配慮をしてください。 ・広報活動・利用促進に取り組んでいますが、その効果に関してどこかのタイミングで点検する必要があります。 ・個別支援級、特別支援学校の利用増に伴い、ボランティア、職員の人権感覚が問われる問題が起こりうる可能性を充分考慮して、人権関係の研修にも力を入れてください。 |
|---|---|

(4) 地域や他機関等との連携・協働について (様式 12)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|---------------------------|------------|---|--|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| ア | 地域との連携・協働について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 地域との連携・協働が図られている | | | | | | |
| イ | 学校、青少年関係団体や企業等との連携・協働について | A | Ⓑ | C | A | Ⓑ | C |
| | 学校、青少年関係団体や企業等との連携が図られている | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1) 地域の人達に研修センターの活動を知ってもらうため、毎年オープンデーを実施し施設を一般開放しています。</p> <p>(2) 地元の催事や防災訓練に研修センター職員が参加するとともに、研修センター主催事業や体験プログラムに地域の人達がボランティアとして支援しており、相互に連携を図っています。</p> <p>(3) 地域住民が主催する陶芸教室やコグニサイズ教室へ会場を提供しています。</p> <p>(4) 研修センターが主体となり地域ネットワーク会議を開催し、島内の町内会と野島公園で事業連携や防災への取り組みについて情報共有をしています。</p> <p>(5) 金沢区の地域産業「海苔づくり」を市民活動団体の協力で体験プログラムとして提供し、海苔づくりの歴史や昔ながらの作り方を伝えています。</p> <p>イ(1) 近隣の小中学校や高校が、事業やボランティア活動の募集チラシの配架協力、大学が学生ボランティアの紹介をしてくれています。</p> <p>(2) センターの点検日を活用し、近隣中学校の職業体験の受け入れをしています。</p> <p>(3) 年4回実施している海浜清掃活動は、中高生の部活や大学のサークル活動の一環として毎年、青少年の参加が増えています。また自動車メーカー企業が社会貢献活動として参加しました。</p> <p>(4) 他団体との連携では、横浜市体育協会が研修センター主催の長期キャンプに共催し、野外活動の指導協力があります。また、横浜市体育協会主催のマリンスクールに共催し、相互に連携をしています。</p> <p>横浜市緑の協会とは、宿泊キャンプやカヌー</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <p>・研修センターは、市全域の青少年施設であるとともに野島の地域施設であることから、地域と合同の防災訓練をするだけでなく、施設の地域開放利用、海苔づくりの伝統文化の継承、近隣中学校の職業体験受け入れ、シニアボランティアの受け入れなど、多様な関わりをもつようになっていきます。2つの町内会、野島公園と一緒に地域ネットワーク会議が開催され、前述の関わり以外にも相互理解が進み、顔の見える関係づくり、スムーズな事業連携ができる環境が形成されつつあるのは大きな成果です。</p> <p>・地域及び学校・青少年関係団体との連携・協働に積極的に取り組んでいます。地域企業との連携においても、(株)横浜シーサイドラインと連携して「プレミアム探検ツアー」を開催したり、自動車メーカー企業が海浜清掃活動に参加したりするなどの取組が見られますが、企業との連携・協働については、まだ課題が残ります。</p> <p>・研修センターの活動を知ってもらうために毎年開催している「のじまオープンデー」の実施を通じ、地域の人達における研修センターの理解促進や交流を図るとともに、地域住民が主催する教室を実施するなど、地域との関係性を深めています。</p> <p>・地域の小中学校、高校、大学とは、チラシの配架協力や、ボランティアとしての活動参加といった連携が図られていますが、もう一步踏み込み、学校のニーズへの即応や、若者の主体性を引き出す連携などの検討が期待されます。</p> <p>・研修センターが主体となり開催している地域ネットワーク会議によって、円滑な事業連</p> | | | |

| | |
|--|--|
| <p>教室に共催し、カヌー乗り場とバーベキュー場の提供や秘密基地づくり用の資材提供などの協力があります。</p> <p>(5)子育て世代への支援として、「ハママグ」に登録するとともに、授乳やおむつ交換場所として研修センターの空きスペースを提供しています。</p> | <p>携が図られているほか、防災についての情報共有や合同防災訓練の実施という成果が得られています。</p> |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域ネットワークに参加している4団体合同で30年度中に防災訓練を実施します。 2 30年度中に野島公園協力により園内の一部の街灯を消灯し、星空観察を実施します。 3 30年度に実施する長期キャンプにおいて、横浜港振興協会の協力を得て、八景島マリーナでヨット乗船体験を実施します。 4 30年度から金沢区青少年地域活動拠点「かなかつ」の夏休みボランティアの受け入れを行います。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のじまオープンデー」について、多くの横浜市民に関心をもってもらい、足を運んでもらえるよう広報することを期待します。その結果、地域住民のみならず、多くの横浜市民が研修センターの活動に関心を持ち、関わるきっかけになると望ましいと思います。 ・「のじボラ」メンバーは、高校生以上であることから、若者の発想力を活かしたプログラムの企画提案をしてもらうことなども考えられます。「のじボラ」メンバーが主体性を持って活動に参加することで、彼らの人間的成長という効果にもつながっていくと思います。 ・地域のボランティアについても、主体的に動く人材となり、地域が自立的に動いていくよう組織していくことが望まれます。 ・多岐にわたる連携・協働事業が展開されるようになり、ネットワークが広がっています。一度、現在の連携・協働の状況をテーマ・活動・連携先・参加対象等に整理して可視化してみることで、今後の戦略的な動きにつながるのではないのでしょうか。その中で、研修センターが主体となってやるべきことと、地域が主体となってやるべきことを整理していくこともなども必要と思われれます。 ・連携先が拡大していく中で、研修センターの有する人材等の資源にも限りがあることから、拡大する一方であると収集がつかなくなる危険性もあります。今後、研修センターの担う役割や、「野島ならでは」といった視点に立ち、連携先の整理や集約を図る機会も必要になると考えられます。 |

4. 管理運営

(1) 運営体制に関する基本的な考え方について (様式 13)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--------------------------------|--|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| ア | 効率的かつ安定的な運営体制の確立 | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 効率的かつ安定的な運営を維持する体制が確立している | | | | | | |
| イ | 人材育成について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 職員の育成、資質向上に取り組んでいる | | | | | | |
| ウ | 危機管理への対応について | Ⓐ | B | C | A | Ⓑ | C |
| | 安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じている | | | | | | |
| エ | 個人情報保護に対する取組みについて | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| | 個人情報保護に取り組んでいる | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1) 研修センターの庶務・経理・労務を法人本部が一括管理をし、研修センターと法人とダブルチェックをすることで、正確かつ効率的な運営を行っています。</p> <p>(2) 設備管理業務を一括に委託することで、業務の効率化を図るとともに、機器の状況を一括管理できており、設備の長寿命化につながっています。</p> <p>(3) 施設管理や青少年育成、体験活動などの経験や資格を有する職員を配置し、安全かつ効率的な勤務体制を実現しています。</p> <p>(4) 業務日誌、メールや予定表を活用し、職員間で情報共有をしています。</p> <p>イ(1) 人権研修・個人情報研修、研修センター独自の研修、育成センターや横浜市主催の研修等に職員を参加させスキルや見識を高めています。</p> <p>(2) 毎月実施する職員会議において、利用者への対応に関するケース会議を行っています。</p> <p>ウ(1) 地震等様々な災害を想定し、緊急時対応マニュアルに基づき年2回防災訓練を実施しています。</p> <p>(2) 津波到着を想定して緊急時対応マニュアルを整備しました。</p> <p>(3) 利用団体に避難経路確認と団体毎の責任者</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的かつ安定的な運営を維持する体制が確立しています。 ・ スタッフ間の情報共有は連絡、打ち合わせ、業務日誌、メール等できめ細やかに行われていると感じます。ただし、繁忙期は様々なトラブル等も起こりやすいと思うので、情報共有に関してはより慎重に丁寧な取組を望みます。 ・ 提案書に沿った人員配置が行われるとともに、法人本部によるバックアップで運営の効率化が図られています。 ・ 庶務・経理・労務を法人本部の一括管理とする仕組みにより、効率的な運営とともに研修センター・法人本部とのダブルチェックを実現し、職員の適正配置や効率的な勤務体制が図られている点は評価できます。 ・ 職員の育成、資質向上についても着実な取組が見られます。 ・ 困難を抱える青少年など、多様な人の受け入れにあたって、横浜市青少年相談センターや国立青少年教育振興機構主催の研修に職員が参加するなど、多様な研修を通じた人材育成が図られています。 ・ 設備管理業務の一括委託などの工夫が認められます。 | | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>配置義務付け、事前打合せ会や入所式において避難場所・経路の案内を行うことで、利用者の防災に対する意識の向上を図っています。</p> <p>(4)災害用ヘルメットを食堂の全ての椅子及び各宿泊室に設置し、活動や就寝時にすぐに着用できるようにしました。</p> <p>(5)横浜市が作成する感染症対策マニュアルに従い必要物品を用意し、感染症を予防するための案内や嘔吐時に適切に対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場に低学年でもわかるようイラストによる手洗手順表を提示 ・ノロウイルス処理セットを常備し、嘔吐発生の際は感染症対策マニュアルに従い対応しています。 ・傷病者発生の際は、毎回事務報告書を作成し、横浜市に報告するとともにデータ管理しています。 <p>(6)宿泊時は毎夜食器の殺菌・乾燥を行い、毎月の点日では職員全員で食器類の洗浄をしています。衛生面では、区生活衛生課からの助言をもとに対応しています。</p> <p>エ(1)個人情報に関する研修に全職員を参加させ、知り得た個人情報は法人が定める個人情報保護に関する規程及び個人情報保護マニュアルに則り、適切に保管・破棄を行っています。</p> <p>【参考】職員が参加した研修一覧 研修センター独自研修「AED講習会」「MF A応急手当講習会チャイルドケアプラス・コース」、育成センター主催「こどもの事故は予防できる」、法人主催「人権研修」、横浜市主催「公共建築物シックハウス対策説明会」「公共建築物の保全に関する研修」「水まわり器具のメンテナンスセミナー」「コンプライアンス研修」、金沢区主催「金沢区食品衛生責任者講習会」、横浜市青少年相談センター主催「若者相談支援スキルアップ研修」、国立青少年教育振興機構主催「全国青少年教育施設所長会議・施設研究集会」、神奈川県立青少年センター主催「リードアップセミナー」、札幌市主催「ユースワーカー合同研修」、NPO 法人金沢カヌークラブ主催「カヌー指導者講習」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時（地震・津波など）の対応についても確実に取り組んでいます。 ・危機管理については、マニュアルが整備されるとともに、定期的な防災訓練の実施をしているほか、事前打ち合わせ会や入所式において非難場所・経路の案内を行うなどの対応が図られています。津波等の緊急時対応マニュアル、感染症対策マニュアル、個人情報保護マニュアル等危機管理への対応もしっかり対応できているようです。 ・個人情報保護についても、マニュアルを整備するとともに、研修に全職員を参加させるなどの取組が行われています。 |
|--|---|

| | |
|---|---|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人情報に関する研修の実施回数の増及び接遇研修を実施することで、利用者が安心して活動できる対応を目指します。 2 海での体験活動が年々増えているため、非常時に備えて、トレーニング用AEDを購入し定期的に訓練を行います。 3 他の青少年施設の見学や他施設の職員と意見交換できる機会を設け、施設運営や危機管理に役立てます。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の利用者数の増加や利用料金収入の増大に向けては、運営体制におけるプログラム開発の人材確保が重要となります。例えば、現在ボランティアとして参加してくれているシニアや、「のじボラ」のメンバーからプログラムの企画提案をしてもらうなども一案ではないでしょうか。商店街の事業などでは、大学生が企画提案し、運営まで手掛ける例などが見られます。 ・危機管理については、緊急時対応マニュアルに基づく訓練と共に、被災地では「とっさの判断」が功を奏していることを鑑み、日ごろから培っている職員間・地域と施設の情報共有と連携を活かしてください。 |
|---|---|

(2) 収支計画について (様式 14)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|------------|--------|------------|------------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|----------|--------|--------|--------|------|-------|-------|-------|---|--|--|--|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ア | 収支計画と無駄な支出の抑制策について | A | Ⓑ | C | A | Ⓑ | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 無駄な支出の抑制に努め、計画通りに収支が推移している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | 財務経営状況について | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 施設を継続的、安定的に運営するための財政的基盤が整っている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>ア(1)利用料金収入は微弱増となっています。目標額に達することができませんでしたが、収入総額全体では目標額を超えることができました。</p> <p>(2)自主事業収入は、体験プログラムの利用が年々増えたことと、参加費単価を見直したことで大幅な増額となりました。</p> <p>(3)支出は、事業増に伴い人件費が膨らんだため、事業の運営を工夫し事業経費の削減に努めました。</p> <p>イ(1)当法人は、平成 29 年度決算において、基本財産 333,780 千円の他に、一般正味財産 218,835 千円を有しており、引き続き安定した運営を継続できるだけの財政的基盤が整っています。</p> <p>【参考】27～29 年度決算額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用料金収入</td> <td>14,937</td> <td>14,125</td> <td>14,778</td> </tr> <tr> <td>自主事業収入</td> <td>3,444</td> <td>5,601</td> <td>5,713</td> </tr> <tr> <td>維持管理運営経費</td> <td>91,014</td> <td>91,508</td> <td>93,304</td> </tr> <tr> <td>事業経費</td> <td>4,219</td> <td>5,106</td> <td>4,149</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 27 年度 | 28 年度 | 29 年度 | 利用料金収入 | 14,937 | 14,125 | 14,778 | 自主事業収入 | 3,444 | 5,601 | 5,713 | 維持管理運営経費 | 91,014 | 91,508 | 93,304 | 事業経費 | 4,219 | 5,106 | 4,149 | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度、29 年度ともに、収入において利用料金収入は予算額に達しなかったものの、自主事業収入が体験プログラムの拡充、参加費単価の見直し等により予算を上回ったことから、収入全体は予算を上回る結果となっています。 支出においては、平成 28 年度、29 年度ともに実績が予算を上回り、その結果、平成 28 年度は収支差額ゼロとなったものの、平成 29 年度は若干のマイナスを計上しています。事業増により人件費が膨らんだため、事業経費の削減に努めたようですが、維持管理運営経費の削減等は実現しておらず、今後の課題です。 設備管理業務についての委託方式が一括委託となったことから、「空調衛生設備保守」や「電気設備保守」といった費用項目において、予算と実績に大きな差が生じるなど、元々の予算立てが実態に合わないものとなってきています。 指定管理者である法人の決算では、基本財産・正味財産（自己資本）が確保・維持されており、財務基盤は安定していると考えられます。 | | | |
| | 27 年度 | 28 年度 | 29 年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利用料金収入 | 14,937 | 14,125 | 14,778 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自主事業収入 | 3,444 | 5,601 | 5,713 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 維持管理運営経費 | 91,014 | 91,508 | 93,304 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業経費 | 4,219 | 5,106 | 4,149 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の金沢ロータリークラブに事業への協賛を依頼します。 2 利用の手引きへの広告収入の獲得を目指します。 3 引き続き、利用促進や体験プログラムの充実を図ることで、収入増を目指します。 | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体としては、収入の増加と無駄な支出の抑制が図られていますが、支出の予算額と決算額の差が大きな項目が見うけられることから、それが予算編成上の問題なのか、あるいは、やむを得ない事情で対応を求められた結果なのかを説明する必要があります。 ・支出項目ごとの予算を設備管理業務一括委託の方式に合わせた形で組みなおし、予算と実績の差異が実態に即した数値となるよう、見直しを図る必要があります。 ・今後予定している取組として、収入源の確保（協賛、広告収入）が挙げられていますが、基本的に予算どおりに執行されれば、赤字の発生は回避される筈であることから、予算と実績の差異分析をしっかりと行い、強化する項目を洗い出して事業の取組を検討することが望まれます。 ・提案書に記載されているように「一度で多数の利用者が見込める利用の拡大」といった視点で、費用対効果を勘案しながら、開拓すべき利用者層を明確にしていく必要があると思われまます。 ・研修センターは社会活動の担い手でもあるので、活動資金の獲得という考えのもとでクラウドファンディングが可能ならば、収入増の選択肢の1つとして検討してみることはどうでしょうか。昨今、地方自治体などの公的機関でもクラウドファンディングを利用しています。 ・企業の協賛・広告だけでなく、例えば、利用者の少ない冬季平日に IT 企業によるひきこもり青少年のために IT スキルアップ講座を行うようなイメージで、企業の出前講座・PR 講座・連携講座等により事業経費のいらないもの、備品提供等をいただくことを検討してみたらどうでしょうか。 |
|--|--|

(3) 施設の維持管理について (様式 15)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 施設の維持管理について | | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| 施設の保守管理、維持管理に取り組むとともに、地球温暖化対策等、環境へ配慮した取り組みを行っている | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>(1)点検マニュアルに基づき日常及び定期点検を行うことで、長寿命化に努めています。</p> <p>(2)故障や破損が発生した際は、速やかに原状回復を図るとともに、可能な限り職員や委託業者が修繕することで経費削減をしています。</p> <p>(3)専門業者による修繕が必要な場合は、修繕計画に基づき計画的修繕に努めています。</p> <p>(4)施設の植栽はボランティアにより手入れがされ、四季折々の花々を植えることで季節感を感じられる施設づくりをしています。</p> <p>(5)入所式や当日の代表者会議において、室内灯やエアコンの節電、廃棄物の分別化の協力を依頼し、利用者に環境保護への意識を促しています。</p> <p>(6)廃棄物の分別については、各ゴミ箱に分別のイラストを貼付することで、幼児や低学年も分別の意識を高められるよう工夫をしています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の管理や定期的なメンテナンスを適切に行い、施設の保守管理・維持管理や美化に努めています。 ・指定管理者自身が環境に配慮した行動をとるとともに、利用者に対しても環境意識の啓発を行っていることが、光熱水費の抑制効果などとなって表れています。 ・設備管理業務を業者に一括委託することで業務の効率化を図っています。 ・施設の保守管理、維持管理には、ボランティアの協力も大きな力となっています。 | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>1 引き続き、利用団体へ照明や冷暖房の切り替えを小まめにするよう働きかけ、節電に努めていきます。</p> <p>2 研修センター周辺のタイルが劣化により破損し始めています。ボランティアに修繕してもらうことで、経費節減を図ります。</p> | | | | <p>【改善に向けた提案、意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進行していることから、安全を最優先に横浜市とも適時適切に調整を図りながら、修繕等を行っていくことが望まれます。また、LED等への切り替えが進むと良いと考えます。 ・施設の維持管理は、日常点検を基本に定期点検を積み重ね、必要に応じて修繕を図り、時には専門業者による計画的修繕をすすめることで長寿命化が図れます。同時に、これまで同様、利用者サービスを阻害しない形でエアコン等での節電、ごみの分別への協力をお願いするなど、環境にやさしい行動をより一層促す必要があります。 ・近年、大規模な自然災害により想定外の被害の発生が見られ、また研修センターは海岸近くに立地することから、大規模な地震や津波、台風等の風雨災害の際に危険な箇所はないか、慎重に再確認することが必要と考えられます。 | | | |

(4) モニタリングの実施について (様式 16)

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| モニタリングの実施について 事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている | | Ⓐ | B | C | Ⓐ | B | C |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| 【評価の根拠】 (1) 法人独自の事業評価システムに基づき、人数等の数値や利用者及び参加者アンケートの意見を反映させた、事業評価を実施しています。 (2) 利用者アンケートを、全宿泊利用者に配布し、アンケート結果をもとに職員会議で情報や問題意識を共有し、運営に反映しています。 (3) 体験プログラムの効果について、体験プログラムを取り入れた学校や青少年団体を対象にアンケートを実施し、結果を研修センターのホームページで公開しています。 (4) 市内寄り添い支援事業を受託している団体へ、経済的困難を抱える青少年に適した体験活動のニーズ調査を行い、そこで得た意見を宿泊キャンプに反映させました。 | | | | 【現状の評価】 ・法人内部での事業評価のほか、外部からの意見等の収集方法として、利用者・参加者アンケートや体験活動のニーズ調査などが行われており、運営等に反映しています。 ・市内寄り添い支援事業を受託している団体への体験活動ニーズヒアリング調査は、ニーズや課題を明確に把握できた貴重な調査だったと思います。このような取り組みも利用促進につながったと思います。 ・地域ネットワーク会議を開催し、近隣町内会及び野島公園と、防災や今後の連携について話し合いが持たれています。 ・利用者との意見交換会等を通して生の声を聞く機会も大切と考えており、今後、研修センターの利用者を対象とする意見交換会において、青少年育成団体、学校、指導者等の団体、企業など、ジャンル別に10団体程度を参加対象として、意見交換を図ることが予定されています。 | | | |

| | |
|---|--|
| <p>【今後予定している取組等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 30年度に実施する長期キャンプにおいて、体験活動の効果や参加する青少年変化を調査し、結果を研修センターのホームページで発信します。 2 研修センターの利用者を対象とする意見交換会を開催し、そこで得た意見やニーズを運営に反映させます。 | <p>【改善に向けた提案、意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査やニーズ調査の結果分析と事業への反映をしっかりと行っていくことが望まれます。例えば、体験活動ニーズヒアリング調査では、スタッフ間の交流や協同企画、困難な状況を乗り越える体験等への要望が出されており、これらについての実効性や実現可能性等を検討する必要があります。 ・地域の外部組織が参加している地域ネットワーク会議なども、防災というテーマに限らず、研修センターが実施している事業に対する第三者視点からの評価・意見を聞く場として活かしていくことも考えられるのではないのでしょうか。 ・長期キャンプの体験活動の効果や参加する青少年の変化についての調査は、専門家の意見なども聞きながら慎重に分析するとともに、結果の発信においては、参加者のプライバシーにも配慮が必要と考えられます。 ・独自のモニタリングと共に、国立青少年教育振興機構等の持つ調査視点やデータを利用し、ゼロから考えなくても良い比較、検討も可能かと思えます。 ・日頃から利用者アンケートやヒアリングによるモニタリングをこまめに実施している点は評価できますが、法人独自の事業評価システムや外部の専門家を含めた専門委員会などについてはまだどうなるか分からず、研修センター単独か法人全体に関わる仕組みを問わず、早期に結論を出して試験的でもいいから一歩を踏み出してほしいと思います。 |
|---|--|